日本語の会話における
言語的／非言語的な参加態度の示し方
―― 初対面の母語話者／非母語話者による4者間の会話の分析 ――

中　井　陽　子

キーワード
言語的、非言語的、参加態度の表出、不参加態度の表出、同時行動

1.　はじめに

時に、非母語話者は、言語的・非言語的な知識・能力の不足のため、母語話者との会話に入り込んでいけず、会話の中で取り残されてしまうことがある。本研究では、特に、視線、手の動き、身体の姿勢の動き、同時行動に焦点を当てて、いかに会話の参加者が言語的・非言語的に会話への参加態度を示し合っているのかを分析し、非母語話者が積極的に会話に参加していくための手がかりの一つを探る。

2.　先行研究

2.1　参加態度の示し方

Goodwin(1981: 96) は、ある参加者が視線や身体の向き等によって、他の参加者の方に向いているか向いていないかという観察を基に、参加態度の表出 (engagement displays) を分析している。例えば、他の参加者に対して参加しようという態度 (engagement) を示しているとは、共に会話に参加し、その瞬間の会話に対する注目を表わしていることだとしている (p.96, 125)。一方、参加しようとしない態度 (disengagement) を示しているとは、会話相手の方に向いておらず､話すなどの共同行為への不参加を示すものだという (p.101)。そして、相互の不参加態度の表出 (display of mutual disengagement) とは、会

話の中の沈黙の間に特徴的に起こるとし、視線や上体を互いに離す行為が観察されるとしている。しかし、このような間も、参加者達は、互いの行動にかなり注意を払っているという。

会話例(1)の1行目に起こった6秒間の沈黙にあたる図1では、参加者全員が下を向き、ジュースを注いだり、飲んだりする行動をして、会話への不参加態度を示している。一方、3行目にあたる図2では、互いに視線を向け、前傾姿勢になって、積極的な参加態度を示し合っている。

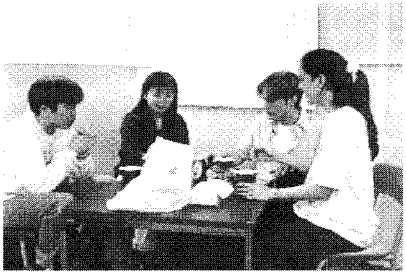

図1：不参加態度の表出
（会話例(1)1行目）

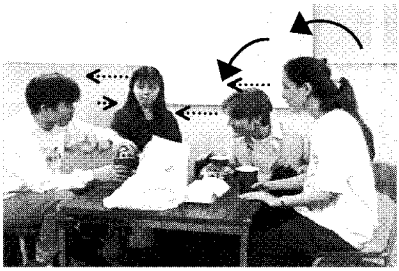

図2：参加態度の表出
（会話例(1)3行目）

2.2 同時行動（synchronization）

Erickson (1976) と Erickson and Shultz (1982) は、カウンセラーと学生の面接の分析で、会話がうまくいっている時には、両者の体の動き（頭、腕、上体、足）と言語行動が同調して同時に行われたのに対し、反対に、問題のある瞬間（uncomfortable moments）には、このような両者の同調した同時行動が起こりにくかったとしている。そして、このような問題のある瞬間は、異文化間、異人種間の面接に起こりやすかったとしている（Erickson 1976 と Erickson and Shultz 1982)。このことから、Bennett (1980) は、円滑なコミュニケーションへの成功は、リズムの流れを形成する能力によって決まるとし、それは、文化的体験の蓄積を通して習得されるという。

さらに、Kendon (1990: 100) は、参加者Aが左腕を左に動かすと参加者Bが右腕を右に動かす、参加者Aが後ろにもたれると参加者Bも後ろにもたれるといった、二人の参加者の間で起こる似通った動きは、「鏡のイメージ（mirror images)」のようであるとしている。このように同じような動きをするという

ことは、互いに注意を払い合いながら、「共にいる（with)」ということを表わすとしている（Kendon 1990: 114)。したがって、Kendon (1990: 114) は、相互作用の中での動きの調和は、第三者に対してではなく、互いに対して共に「開かれている（open)」ということを示す一つの方法であるという点で大変重要であるとしている。

2.3 視線

視線とターンの受け継ぎの表示の関係について、Goodwin (1980: 275, 287 筆者和訳）は、聞き手と話し手の視線を分析し、次の二つのルールを掲げている。

ルール１：話し手はターンの途中で聞き手の視線を得なければならない。

ルール２：話し手が聞き手を見ている時、聞き手は話し手を見なければならない。

このように、聞き手が話し手を見るという行為は、「聞いているということ（hearership)」、つまり、会話に参加しようとする態度（engagement）を示す一つの方法であり、もし参加者が互いに目を合わさないでいる場合は、一時的に会話に参加しようとしない態度（disengagement）にもなるとしている（Goodwin 1981)。

よって、視線が向けられているかどうかは、参加者が会話へ参加しているかどうかを示す最も重要な要因のひとつであるといえる。つまり、参加者は、視線を話し手に向けることによって、会話への参加態度を示し、視線を向けないことによって、不参加態度を示していることになる[1]。

3. 会話データ分析

3.1 会話資料・参加者背景

分析する会話資料は、20－30代の日本語母語話者２人（仮名：高志、八重）と日本語学習者（仮名：ロン、スー）による約45分間の初対面の日本語自由会話を録画撮りしたものである。その会話の前半部分の途中（２分30秒間）の会話例(1)と会話例(2)を分析する。

撮影当時、高志と八重は、米国某大学に留学している大学生で、知り合って

から１年半程度の親しい友人同士であった。ロンとスーは、同大学の３年生の日本語クラス（授業時間数500時間以上）に在籍しているアメリカ人学生であった。ロンは、１年間日本への留学経験がある。スーは、母親が日本語母語話者であり、生まれた時からアメリカの家庭で日本語を使用しており、幼い頃から数回の来日経験もあり、日本語口頭能力は、ほとんど母語話者に近かったといえる。撮影当日、高志と八重は、ロンとスーに初めて会い、４人で45分間程度自由に会話してもらった。

3.2　会話における参加態度の表出の分析

参加者が会話において、いかに言語的・非言語的行動を同調させて、参加態度と不参加態度を相互に示し合っているかについて、次の２つの会話例をもとに分析する。

3.2.1　会話例(1)：お名前は？

会話例(1)では参加者は、言語的・非言語的に他の参加者の会話への参加を促し、また、既知の友人同士（日本語母語話者２名と日本語学習者２名）という２つのグループで動きを同調させながら、互いに参加態度を示し合っていることがうかがえた。

会話例(1)の２分30秒前の会話開始直後に、参加者同士、名前を名乗るなどの簡単な自己紹介をしていた。そして、会話例(1)の直前である40秒前に、スーの生い立ちの話題になり、高志と八重が、スーは母親が日本人だが純粋な白人に見えるということを述べていた。このような話題は、スーにとってコメントしにくいものであるため、すぐにスーは何も言わずに微笑みながら下を向いてしまった。この結果、会話例(1)の１行目の６秒間の沈黙が起こり、誰も前の話題について話さず、下を向いてジュースを注いだり、飲んだりする単独的な行為に従事し、不参加態度を示していた（図１）。

この１行目の６秒間の沈黙の間、ロンは、一度、高志を見るが、高志は下を向いて不参加態度を示しているので、また下を向き、そして、２行目で、もう一度高志を見て、「あのー」と言って、高志の視線を得ている。そして、さらに、ロンは、膝を叩いて（図３）、頭を傾け、前傾姿勢になって（図４）、「お

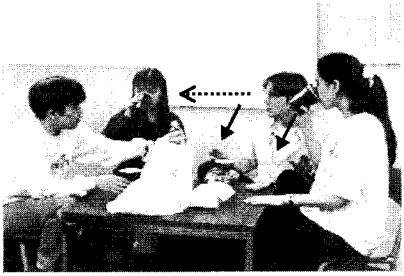

図３：ロンが膝を叩いている
（会話例(1)２行目）

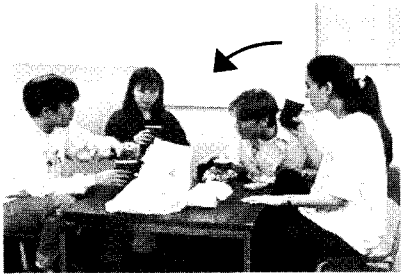

図４：ロンが前傾姿勢になっている
（会話例(1)２行目）

名前は？」と、高志の名前は何であったか忘れたので、確認の質問をしている。

このように、ロンが言語的に（「あのー、お名前は？」）、また、非言語的に（膝を叩く、頭を傾ける、前傾姿勢になる）高志の注意を明示的に引こうとしているのは、ロンが高志を見た時、高志がロンを見ていなかったからであるといえる。それは、すなわち、Goodwin（1980: 287）の「ルール１：話し手はターンの途中で聞き手の視線を得なければならない」からであるといえる。また、スーの生い立ちと容姿という話題展開をこれ以上続けるには難しいと思われる話題の後の６秒間の沈黙を破り、全く違う話題を開始するには、非言語的にも非常に明示的な方法を用いる必要があったものと思われる。

もう一つ、会話例(1)で興味深い点は、高志の名前を既に知っている高志と八重という友人グループと、高志の名前を覚えていないロンとスーという友人グループの２つに分かれて、同時行動による相互の参加態度が表出されていることである。それぞれのグループの中の参加者は、互いに視線や姿勢の動きを同調させて、参加態度を共に示していることが観察される。例えば、２行目で、ロンが「あのー」と言って、高志を見た後、高志と八重は、ロンを見ることによって二人同時に参加態度を示している（図５）。

一方、スーは、同じく２行目で、ロンと共に、高志を見て、前傾姿勢になるという同時行動によって、ロンが高志の名前を尋ねる行為に参加し、高志から名前を聞き出すために、ロンと共に参加態度を示している（図２、図６）。

また、八重は、３行目のはじめは高志を見ているが（図２、図６）、高志が

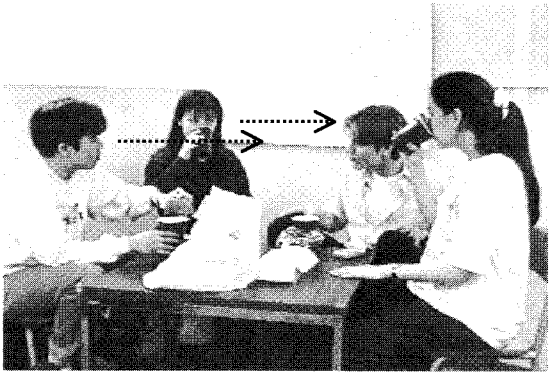

図５：八重と高志がロンを見る（会話例(1)２行目）

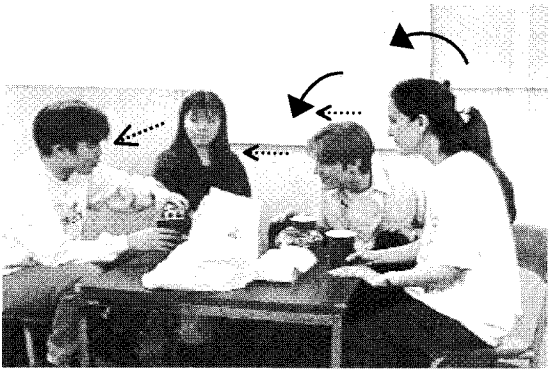

図６：スーがロンと同時行動をする／八重が高志を見る（図２と同じ）（会話例(1)３行目）

「高志です。」と言ってロンを見るのと同時に、ロンを見ることによって、高志とグループになって、視線によって、ロンの質問に対する答えを投げ返しているといえる（図７）。

そして、４行目でロンが「高志。」と名前を聞き出して繰り返した後に、ロンとスーが同時に姿勢を後ろに戻している（図８）。

そして、最後に、６行目で、ロンが「あーすみません、けど、私は名前に、名前が下手なんです。」と発話した時に、スーと高志と八重がロンを見ることにより、この２つのグループの分割はなくなり、その後、７行目で、４人で共に笑っている（図９）。

以上のように、６秒間の相互の不参加態度の表出の間も、参加者は、互いの

図７：八重と高志がロンを見る（会話例(1)３行目）

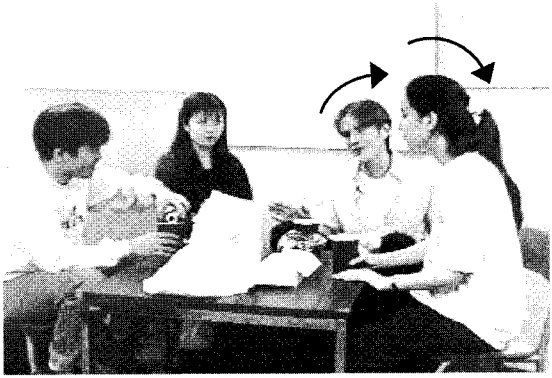

図８：ロンとスーが姿勢を後ろに戻す（会話例(1)４行目）

図９：全員が笑う（会話例(1)７行目）

言語的・非言語的な参加態度の表出に注意を払い、また、それに合わせながら、自分が再び会話に参加できる瞬間をうかがっていることがわかる。そして、参加者は、会話の瞬間瞬間でグループを形成して、同調した同時行動によって、参加態度を示し合っているといえる。

3.2.2 会話例(2)：会計学のクラス

会話例(2)では、高志とスーが視線を向け合う、机を叩く、机に手を載せる、前傾姿勢になる、ささやく等という似た行為をして、参加態度を互いに示し合っていることが観察された。

まず、1行目で、八重がロンとスーを交互に見ながら、「一緒のクラスなんですか、陽子さんと？」と、ロンとスーの大学のクラスについて尋ねている。そして、7行目でスーが「はい、私は日本語の、日本語と会計学のメジャーなんです。」と、会計学を専攻していることを述べ、それに対して、高志が8行目で「あー。」と言って興味を示している。そして、15行目で、高志は、「えっそ、今//ちょっと困ってて。」の「今」のところで右手で机を叩いた後で、スーを見ながら、自分の取っている会計学のクラスが大変なので、スーに教えてもらいたいということをほのめかしている。すると、その直後の16行目で、スーも「まだ会計学の」と言いながら、同じく左手で机を叩き、その手を机の上に置く。スーは、机を叩くという高志と同じ行為をすることによって、高志と共に参加しているという態度を非言語的に示しているといえる。また、スーは、手を机の上に置くことによって、高志の会計学を教えて欲しいという話題に興味を示しているようにうかがえる。さらに、17行目で、高志は、「ちょっとまじな話で、本当に。」という発話を強調するために、右手を3回縦に振り、両手をスーと同様に机の上に置いて、スーの会計学専攻の話題への積極的な参加態度を示している（図10）。

しかし、18行目で、スーは、「いえ、いえ、いえ、まだ」と言って、謙虚な態度で高志の会計学を教えてほしいという依頼を断っている。そして、20行目で、「まだ、会計学のクラスは、あの、始まってないので。」と言って、21行目の八重の「あ、そうですか。」という発話の時に、机の上に載せていた左手を少し自分の方に引いて、不参加の態度を示している。そして、23行目で、高志

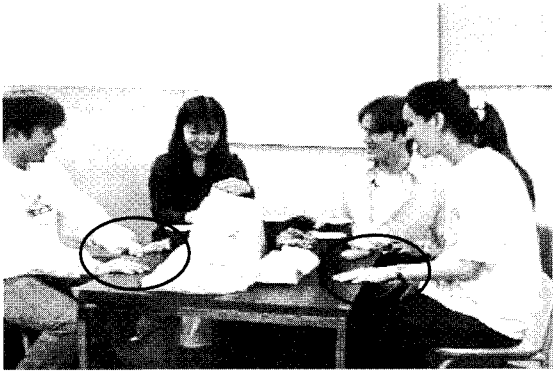

図10：高志とスーが机の上に手を置いて参加態度を示している（会話(2)17行目）

は、「え、じゃあ、Cの？」と言いながら、机を1回叩き、両手を机の上に置いて、スーに対して、会計学の専門クラスを取る前に履修するC先生の授業を取っているかどうか尋ね、スーが会計学の話題に再び参加するように促す。それを受けて、24行目の「はい、あの、一応プリビジネス？」で、スーがプリビジネスのクラスを取っていると述べると、25，27，29行目で、高志は、机に両手を置いたまま、前傾姿勢になり、スーに視線を向けて、「あ、ほんとに？ほんとに？　同じなんですけど。」とスーだけにささやきかけることによって、スーを会話に参加するように促し、自らの積極的な参加態度を示している。そして、26－29行目で、スーもまた、高志と同じように、左手を机の上に置いたまま、前傾姿勢になり、高志に視線を向け、「はい。はい。」と高志だけ

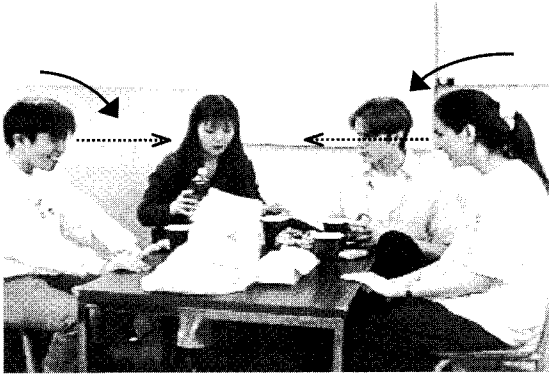

図11：高志とスーが前傾姿勢で見つめ合ってささやく（会話(2)25－29行目）

にささやきかけることによって、高志の話題への参加態度を示している（図11）。

そして、31行目で、高志がスーに、「いや、本当に、冗談抜きで。」と言って笑って頼むと、スーは、32行目で下を向きながら「いや、ちょっ、」と言った後、机の上の左手を少し前に出しながら、「そうですか。」と言って、参加態度を示し、高志の依頼を受け入れている（図12）。

そこで、高志は、33行目で、「ちょっと今、アカウンティング、ほんと困ってる。」と言いながら、机を３回叩いて、スーの視線を自分の方に向け、スーに会計学を本当に教えてもらいたいという気持ちを強調している（図13）。

図12：スーが手を前に出す（会話例(2)32行目）

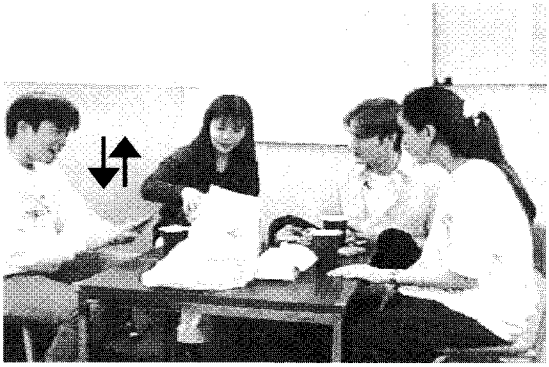

図13：高志が机を３回叩く（会話例(2)33行目）

しかし、34行目で、スーは、「あ、私も本当に困ってます。」と言って会計学を教えることはできないということをほのめかしている。そして、35行目で、スーは、「どうしようかと。」と言って、机の上の左手を完全に引いて下ろし、姿勢を後ろに引くことによって、高志とのやり取りに対する不参加態度を示している。しかし、さらに、36行目で、高志は、「え、な、今どれをどれを取ってるん？//どのクラス。」と、まだスーの会計学のクラスに興味を示し、どのクラスを取っているか尋ねている。そして、37行目のスーの「いや、今は取ってないんです、実は。」で、スーがまだ会計学のクラスを取っていないことが判明すると、高志は、38行目で「あっ、取ってない。」とがっかりして、下を向き、スーとのやり取りに対する不参加態度を示している。そして、スーもまた、この時同時に、39行目で下を向いている。さらに、41行目で、高志が「そうかあ。」と言って、スーへの依頼をあきらめ、下を向いて、会話への不参加態度を示している。スーもそれを見て、42行目でまた「ええ。」と言って下を向いて、不参加態度を示している（図14）。

以上のように、高志とスーは、言語的・非言語的に、「鏡のイメージ」のように、視線、手の動き、姿勢、声の調子などを変えて、参加態度を示すと同時に、互いの参加態度の表出を観察して、瞬間瞬間で会話に参加していっていることがうかがえる。このような互いに同調し合った同時行動は、他の参加者ではなく、まさに高志とスーだけに対して「開かれている（open）」ということ

図14：高志とスーが下を向く（会話例(2)42行目）

を示す行動であるといえる。また、会話例(2)における、高志とスーの目線、手の動き、姿勢は、会話の中の「スーが高志に会計学を教える」という依頼と承諾・断りという駆け引きの発話と連動して起こっているといえる。例えば、スーが机の上に手を置いたり、その手を前に出したりした時は、スーが高志の依頼に興味を示し、承諾しようという気持が強くなっていることを表し、より積極的な参加態度の表示をしていると考えられる。反対に、スーが机の上の手を引くことによって、スーが高志の依頼を断わる態度を少し示し、さらに、スーが手を完全に引いて下ろすことによって、依頼を完全に断わり、二人の交渉の終了を表して、不参加態度の表出をしていると考えられる。

4. まとめと今後の課題

本研究では、Goodwin (1981) の参加態度の表出の概念をもとに、母語話者と非母語話者による4者間の会話を分析した。その結果、会話の参加者である4人の間で、参加者の組み合わせを動的に変化させながら、言語的行動に伴って、様々な非言語的行動を巧みに調整しつつ、会話への参加・不参加の態度を示していることが明らかになった。その具体的な特徴として、以下の4点が観察された。

1)「あの」と言ったり、他の参加者を見たり、膝を叩いたり、体を前に傾けたりして、言語的・非言語的に他の参加者の注意を引き、会話への参加を促している。

2)言語的行動に伴って、視線を向けたり、姿勢を変化させたり、手を机に載せたり、手を前後に動かしたりする非言語的行動によって、参加・不参加の態度の度合を変化させて表出している。

3)4人の参加者がしばしば2つのグループを形成し、グループ内で同調した視線や姿勢の変化などの同時行動を行って、似通った参加態度の表出をしている。

4)依頼と承諾・断りという駆け引きをしている2人の参加者が言語的・非言語的に似通った行動（視線・手の動き・姿勢を変える、机を叩く、ささやく、笑う等）をすることにより、互いに会話への参加態度を示している。

つまり、頭や手、上体などの体の部分や視線を会話の空間に入れて参加態度を

示し、反対に、体の部分や視線を会話の空間から外し、不参加態度を示しているといえる。このような非言語的な参加態度の表出は、言語行動と体系的に結びついており、参加者にとって、他の参加者の会話への参加の度合いを視覚的に理解する手がかりにもなるといえる。特に、今回分析したような複数の参加者からなる会話は、参加態度を互いに示しあったり、同時行動をし合ったりする参加者同士の組み合わせが動的に変化しながら進行するといえる。そのため、2者間の会話より、複数の参加者による会話の方が、会話へ参加しようとする態度の表出が参加者全員に常に強く要求されるとは限らないので、参加・不参加の態度の表出の度合の差が参加者間で明確に異なってくるといえる。それは、例えば、会話例(2)のように、高志とスーによる依頼と承諾・断りの駆け引きと直接関係のない八重とロンが、積極的に参加態度の表出をしなくてもよかったということからも分かる。

今回分析したデータは、日本語母語話者と非母語話者による1会話であり、ここでみられた言語的・非言語的行動の分析結果は、個別的な事象でもあるともいえるが、また、個人や日本語、母語話者・非母語話者などの特徴を超えた普遍的な事象であるとも考えられる。そして、これらの会話への参加態度の表出方法をどのように日本語教育へ応用できるかについては、次のようなことが考えられる。まず、言語的、非言語的な参加態度の表出方法について、教師自身が意識的に捉え、教室活動を行う際、学習者の会話練習への参加態度を判断する際の指標とし、学習者をより積極的に会話練習活動へ参加させるように働きかけることができるといえる。また、学習者自身にも自身や他者の参加する会話を撮影したビデオを見せ、言語的・非言語的な参加態度の表出方法について、客観的に観察・分析し、より効果的な会話への参加の仕方を考えさせる機会を与えることができるであろう。そして、実際に学習者が会話に参加している際に、客観的に自身や他者の会話を瞬間瞬間で観察し、会話の中で今何が起こっているか自らの力で的確に判断する能力を育成していくことができると考えられる。それによって、Bennett (1980) がいうような「リズムの流れを形成する能力」を体得し、同時行動などによる、より心地よいリズムとともに、会話に参加できるようになるのではないかと思われる。また、どうしても会話にうまく参加できない学習者には、言語的行動とともに、まず体を用いて、意識

的に会話相手の体の動きに合わせた同時行動をしてみて、相手との心地よいリズムを形成してみる練習をするのも有効かと思われる。この際、学習者の第一言語でも用いている普遍的な言語的・非言語的な参加態度の表出方法を日本語での会話でも有効に活かす方法を考えさせると同時に、日本語特有の参加態度の表示方法を理解させるようにするのがよいであろう。

このような日本語教育への応用をより具体的にしていくためにも、今後の課題として、研究者、教師、学習者による、より多くのデータの分析と、学習者の第一言語と日本語の会話での相違点、母語話者と非母語話者の会話への参加方法の違い[(2)]を明らかにしていくことが必要であると考えられる。また、より綿密な非言語的行動の分析のために、数台のビデオカメラによる角度を変えた録画方法などを工夫する必要もあるといえる。

文字化表記方法

ザトラウスキー（1993）を参考に以下のような方法で行った.

。	下降のイントネーションで文が終了することを示す。
、	ごく短い沈黙、あるいはさらに文が続く可能性がある場合の「名詞句、副詞、従属節」等の後に記す。
?	疑問符ではなく、上昇のイントネーションを示す。
ー	「ー」の前の音節が長く延ばされていることを示す。
//	同時発話
｛ ｝	笑い等の非言語的行動

その他

‖	話し手自身／話し手と同じグループの参加者の非言語的行動は、発話の上に記した。話し手ではない参加者の非言語的行動は、話し手の発話の下に記した。
〈WH　WH〉	ささやき声で発話されたもの

図の中の矢印

⟶	手や頭、姿勢の動きを示す。
⇢	視線の方向を示す。

本研究は、16年度早稲田大学特定課題研究助成費「日本語母語話者／非母語話者間の会話における言語的／非言語的な参加態度の示し方」の研究成果の一部であり、第14回社会言語科学会研究大会で発表したものに加筆修正したものである。

注

(1) 考え中やためらいなどで、発話が中断している際も、一時的に視線を合わせない瞬間がある。このような場合も、一時的に会話相手との会話を中断して、不参加態度を示しているものとする。

(2) 母語話者と非母語話者による参加態度の示し方の違いの分析については、中井（2005）参照。

参考文献

ザトラウスキー、ポリー（1993）『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版

中井陽子（2004）「日本語の会話における言語的／非言語的な参加態度の示し方—初対面の母語話者／非母語話者による4者間の会話の分析」『第14回社会言語科学会研究大会予稿集』pp. 107-110　社会言語科学会

———（2005）「会話のフロアーにおける言語的／非言語的な参加態度の示し方—初対面の日本語の母語話者／非母語話者による4者間の会話の分析」『第15回社会言語科学会研究大会予稿集』pp. 214-217　社会言語科学会

Bennett, Adrian. 1980. Rhythmic analysis of multiple levels of communicative behavior in face-to-face interaction. Aspects of nonverbal communication, ed. by Walburga von Raffler-Engel. Lisse: Swets and Zeitlinger.

Erickson, Frederick. 1976. Gatekeeping encounters: A social selection process. Anthropology and the public interest, ed. by Peggy Sanday. New York: Academic Press. pp. 111-145.

——— and Jeffrey Shultz. 1982. The counselor as gatekeeper: Social interaction in interviews. New York: Academic Press.

Goodwin, Charles. 1980. Restarts, pauses, and the achievement of a state of mutual gaze at turn-beginning. Sociological Inquiry 50: 272-302.

———. 1981. Conversational organization: Interaction between speakers and hearers. New York: Academic Press.

Kendon, Adam. 1990. Conducting interaction. Cambridge: Cambridge University Press.

会話例(1)：お名前は？

全員下を向いている。
高志はジュースを注いでいる。
八重とスーはジュースを飲んでいる。　　*ロンが高志を見て、下を向く*
||　　（図１）　　||
1　（　　6.0秒間の沈黙　　）

スーが高志を見て、前傾姿勢になる。
||
ロンが高志を見る。　*ロンが膝を叩く。(図３)*　*ロンが頭を傾けて前傾姿勢になる。(図４)*
||　　||　　||
2　ロン：　**あのー、**　　**お名前は？**
||　　||
高志と八重がロンを見る。(図５)　　*高志が下を見る。*

八重が高志を見る。　*高志と八重がロンを見る。*
(図２、図６)　　*(図７)*
||　　||
3　高志：　**ああ、高志、高志です。**

ロンとスーが姿勢を後ろに戻す。(図８)
||
4　ロン：　**高志。**

5　スー：　**高志、ええ、あー。**

ロンが高志を見る。
||
6　ロン：　**あーすみません、けど、私は名前に、名前が下手なんです。**
||　　||
スーがロンを見る。　*高志と八重がロンを見る。*

7　全員：　{笑い}　*(図９)*

会話例(2)：会計学のクラス

八重がロンとスーを交互に見る。
||
1 八重: 一緒のクラスなんですか、陽子さんと？

2 ロン: と、ううん、違い//ます。

3 スー: 違います。

4 ロン: と、私は日本語の三年生ですけど。

八重がスーを見る。 *八重がロンを見る。*
|| ||
5 八重: ふーん、え、メジャーですか？

6 ロン: あー。

7 スー: はい、私は日本語の、日本語と会計学のメジャーなんです。

8 高志: あー。

9 ロン: わた、私は、えっとー、地理と日本語の、専門だ。

八重が高志を見る。 *八重が高志の膝を叩く。*
|| ||
10 八重: あー、な、会計学だよ。

11 高志: そう。

12 八重: 教えてもらいな。

13 高志: え？ {笑い}

14 スー: いやあ。 {笑い}

高志が右手で机を叩く。 *高志がスーを見る。*
|| ||
15 高志: えっそ、今//ちょっと困ってて。

スーが左手で机を叩き、左手を机に置く。

||

16 スー:　　まだ会計学の

高志が右手を3回縦に振って、机に置く。 高志が両手を机に置く。(図10)

||　　||　　||

17 高志:　ちょっとまじな話//で、本当に。

---

18 スー:　　いえいえいえ、まだ。

高志が両手を机に置く。

||

19 高志:　ほんとに。

---

20 スー: まだ会計学のクラスは、あの、始まってないので。

---

21 八重: あ、そうですか。

||

スーが左手を少し引く。

---

22 スー:　ええ。

高志が右手で机を叩き、両手を机に置く。

||

23 高志:　え、じゃあ、Cの？

---

24 スー: はい、あの、一応プリビジネス？

高志が前傾姿勢になる。(図11)

||

25 高志: 〈WH あ、ほんとに？WH〉

スーが前傾姿勢になる。

||

26 スー: 〈WH はい。WH〉

27高志:　〈WH ほんとに？WH〉

---

28 スー: 〈WH はい。WH〉

---

29 高志:　〈WH 同じなんですけど。WH〉

30 スー:　{笑い}

31 高志: いや、本当に、冗談抜きで。{笑い}

スーが下を見る。　スーが左手を前に出す。(図12)
||　　||
32 スー:　いや、ちょっ、そうですか。

高志が両手で机を3回叩いて、(図13) 机に置く。
||　　||　||
33 高志: ちょっと今、アカウンティング、ほんと困ってる。
||
スーが高志を見る。

スーが左手で自分の鼻を指す。　スーが左手を机に置く。
||　　||
34 スー:　あ、私も本当に困ってます。

スーが左手を机から引いて下ろす。スーが後ろに姿勢を戻す。
||　||
35 スー:　//どうしようかなと。

36 高志:　え、な、今どれをどれを取ってるん？
//どのクラス。

37 スー:　いや、今は取ってないんです、実は。{笑い}

高志が下を向く。
||
38 高志: あっ取ってない。//{笑い}

スーが下を向く。
||
39 スー:　{笑い}

八重がスーを見る。
||
40 八重: {笑い}

41 高志:　そうかあ。

||

スーが高志を見る。

スーが下を向く。(図14)

||

42 スー:　ええ。